

令和5年度 薬理学Ⅰ・Ⅱ (B11a 薬理学)

【医科学】

授業回数			月日(曜日)	時限	講義内容	担当者			講堂
I	II					所属	職	氏名	
○	○	1	4月24日(月)	Ⅲ	総論1	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	基一
○	○	2	〃	Ⅳ	総論2	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃
○	○	3	4月25日(火)	Ⅰ	総論5・薬物動態学、毒性学	薬剤部	教授	寺田 智祐	〃
○	○	4	〃	Ⅱ	総論6・医薬品の開発(治験)	薬剤部	教授	寺田 智祐	〃
○	○	5	4月27日(木)	Ⅱ	総論3・薬物標的としての受容体	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
○	○	6	〃	Ⅲ	総論4・薬物標的としてのイオンチャネルとトランスポーター	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		7	〃	Ⅳ	自律神経作用薬1・総論	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		8	4月28日(金)	Ⅲ	自律神経作用薬2・コリン作用薬、抗コリン作用薬	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		9	〃	Ⅳ	自律神経作用薬3・アドレナリン作用薬	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		10	5月8日(月)	Ⅲ	自律神経作用薬4・抗アドレナリン作用薬	システム神経薬理	教授	林 康紀	〃
		11	〃	Ⅳ	抗不整脈薬	循環器内科	講師	静田 聡	〃
		12	5月10日(水)	Ⅲ	強心薬	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃
		13	〃	Ⅳ	高血圧治療薬・血管拡張薬	神経・細胞薬理	助教	宮本 章歳	〃
		14	5月11日(木)	Ⅱ	利尿薬	腎臓内科学	教授	柳田 素子	〃
		15	〃	Ⅲ	抗凝固薬・抗血小板薬	神経・細胞薬理	講師	山城 佐和子	〃
		16	〃	Ⅳ	高脂血症治療薬	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃
		17	5月12日(金)	Ⅲ	呼吸器疾患治療薬	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃
		18	〃	Ⅳ	消化器治療薬	システム神経薬理	准教授	實吉 岳郎	〃
		19	5月15日(月)	Ⅲ	糖尿病治療薬	神経・細胞薬理	准教授	木内 泰	〃
		20	〃	Ⅳ	内分泌系作用薬	神経・細胞薬理	教授	渡邊 直樹	〃

※「薬理学Ⅰ」については、自分の興味や研究分野に照らし合わせ、計15回を自ら選択し受講すること。
「薬理学Ⅱ」については、同じく計30回を自ら選択し受講すること。
ただし、いずれも○がついている総論(6回)の授業は必ず受講すること。

令和5年度 薬理学Ⅰ・Ⅱ (B11a 薬理学)

【医科学】

授業回数			月日(曜日)	時限	講義内容	担当者			講堂
I	II					所属	職	氏名	
		21	5月16日(火)	I	中枢神経作用薬1・総論	システム神経薬理	教授	林 康紀	基一
		22	〃	II	中枢神経作用薬2・抗精神病薬	システム神経薬理	助教	浅岡 希美	〃
		23	5月17日(水)	III	中枢神経作用薬3・抗うつ剤、抗不安剤	システム神経薬理	准教授	實吉 岳郎	〃
		24	〃	IV	中枢神経作用薬4・抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬	システム神経薬理	助教	後藤 明弘	〃
		25	5月18日(木)	I	麻酔薬と筋弛緩薬	麻酔科学	教授	江木 盛時	〃
		26	〃	II	抗炎症薬・免疫抑制剤1	創薬医学	特定准教授	タムケオ・ディーン	〃
		27	〃	III	抗炎症薬・免疫抑制剤2	創薬医学	特定准教授	タムケオ・ディーン	〃
		28	〃	IV	抗炎症薬・免疫抑制剤3	創薬医学	特定准教授	タムケオ・ディーン	〃
		29	5月19日(金)	III	中枢神経作用薬5・オピオイド系、非オピオイド系鎮痛薬	システム神経薬理	助教	浅岡 希美	〃
		30	〃	IV	抗菌薬	臨床病態検査学	教授	長尾 美紀	〃
		31	5月22日(月)	I	抗腫瘍薬1	薬剤部	助教	今吉 菜月	〃
		32	〃	II	抗腫瘍薬2・分子標的薬1	神経・細胞薬理	准教授	木内 泰	〃
		33	〃	III	抗腫瘍薬3・分子標的薬2	薬剤部	助教	今吉 菜月	〃
		34	〃	IV	薬物の毒性・副作用	薬剤部	准教授	中川 俊作	〃
			5月23日(火)	I	第1回試験 (5/15のⅣ講義分まで)				〃
		35	5月24日(水)	I	薬物の吸収・分布	薬剤部	講師	平 大樹	〃
		36	〃	II	薬物の代謝・排泄	薬剤部	講師	平 大樹	〃
		37	〃	III	薬物動態の変動因子	薬剤部	准教授	中川 俊作	〃
		38	〃	IV	臨床薬物速度論・治療薬物モニタリング (TDM)	薬剤部	准教授	中川 俊作	〃
		39	5月25日(木)	III	薬物相互作用	薬剤部	講師	平 大樹	〃

※「薬理学Ⅰ」については、自分の興味や研究分野に照らし合わせ、計15回を自ら選択し受講すること。
「薬理学Ⅱ」については、同じく計30回を自ら選択し受講すること。
ただし、いずれも○がついている総論(6回)の授業は必ず受講すること。

令和5年度 薬理学Ⅰ・Ⅱ (B11a 薬理学)

【医科学】

授業回数			月日(曜日)	時 限	講 義 内 容	担当者			講 堂
I	II					所属	職	氏名	
		40	5月25日(木)	Ⅳ	薬物投与法、剤形とdrug delivery system	薬剤部	助教	勝部 友理恵	基一
			6月12日(月)	Ⅲ	第2回試験 (5/16 I限の講義分以降)				〃

※「薬理学Ⅰ」については、自分の興味や研究分野に照らし合わせ、計15回を自ら選択し受講すること。
「薬理学Ⅱ」については、同じく計30回を自ら選択し受講すること。
ただし、いずれも○がついている総論(6回)の授業は必ず受講すること。